

## 感染症の流行する季節が近付いてきました 冬に流行しやすい感染症は??

### インフルエンザ

症状：悪寒、高熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感など

感染した人の咳・くしゃみで放出されたウイルスを吸い込んだり、感染者が咳やくしゃみを押さえた手で触った物に触れ、その手で自分の目、鼻、口に触れたりして、ウイルスに感染することがある。



### 感染性胃腸炎

症状：下痢・嘔吐・腹痛・微熱など

ノロウイルスやロタウイルスなどの感染によるもので、ウイルスに汚染された食品や水からだけでなく、感染者の乾燥した便や吐物から空気中に舞い上がったウイルスを介しての二次的な感染もある。



### マイコプラズマ感染症

症状：発熱、倦怠感といった風邪症状が数日続き、乾いた咳が徐々に悪化する。その咳が長期間続く

最初は風邪症状と同じであるため気づきにくい場合が多い。いつもの風邪と違うなど感じたら病院へ。



り患した場合、まずは担任の先生に報告!

発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまでは出席停止です

主治医の指示に従い療養してください。これらの疾患は、学校において流行があった場合等に、必要があれば、出席停止の措置をとることがあります

これまでも散々コロナ対策でお伝えしてきましたが...

- ◎ マスクを正しく着用しましょう。咳やくしゃみの時も周囲に触れにくい上腕部で覆いましょう。
- ◎ 手洗いを励行しましょう。アルコール消毒液も置いておきますので、活用してください。
- ◎ 室内では、濡れタオルや加湿器などで湿度を保ち、こまめな換気を行いましょう。
- ◎ 栄養や睡眠を十分にとり、免疫力や抵抗力を高めておくことも大切です。
- ◎ 不調時は無理して登校せず、ゆっくりと休養しましょう。



## インフルエンザワクチンについて



Q1. 新型コロナ対策でインフルエンザの流行も抑えられるから必要ないんじゃないの?  
A. 日本感染症学会によると、昨年はインフルエンザの患者数が極めて少なく、社会全体の集団免疫が形成されていないと考えられ、そのような状況下で海外からウイルスが持ち込まれば大きな流行を起こす可能性もあるため、インフルエンザワクチンの接種を推奨しています。また、小児や高齢者、基礎疾患がある、著しい肥満であるという場合には感染した際の合併症リスクが高いといわれていますので、より積極的に接種を推奨しています。

Q2. そもそもインフルエンザワクチンってどんなワクチン?  
A. 毎年、流行予測より選定される4価（A型2種類、B型2種類）のワクチンです。ワクチンに含まれる卵白アルブミン量は極めて少なく多くは安全に接種できていますが、喘息や鶏卵・鶏肉にアレルギーを起こす恐れのある人は医師に相談しましょう。

Q3. インフルエンザワクチンの効果は?  
A. 残念ながら接種すればインフルエンザにかからないというものではありません。まず、インフルエンザにかかる時は、ウイルスが口や鼻から体の中に入ってくることから始まり、次に細胞に侵入して増殖します。この状態を「感染」といいますが、ワクチンはこれを完全に抑える働きはありません。次に、ウイルスが増えると数日の潜伏期間を経て、発熱やのどの痛み等のインフルエンザの症状が起こります。この状態を「発症」といいます。ワクチンには、この発症を抑える効果が一定程度認められています。また、重症化（肺炎や脳症などの重い合併症が現れる）を防ぐ一定の効果が期待できるとも言われています。

Q4. 副反応ってなに?  
A. インフルエンザの予防接種の場合、接種部位の腫れ・赤み・痛みは10~20%の人に、発熱・頭痛・倦怠感は5~10%の人に起こるといわれていますが、通常2~3日で治まります。まれにショック症状など現れる可能性もあるので、医師によく確認しておきましょう。

Q5. 効果はどれくらい持続するの?  
A. これまでの研究から、ワクチンの予防効果が期待出来るのは接種した後2週間から5ヵ月程度と考えられています。インフルエンザの流行時期は例年12~3月とされていますので、予防接種を受ける場合は12月初旬頃までには済ませておきたいですね。



これらのことを踏まえた上で、接種するかどうかは保護者の方とよく相談して決めましょう。